

銅相場 の焦点 中国景気対策と米大統領選の行方

橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

十月前半は、OPEC加盟国と非加盟国が八十三日にトルコのイスタンブールで、前月にOPECが合意した減産の枠組みについて話し合う見通しなどの好材料もあったが、英メイ首相が来年三月までに離脱するとの発言をしたことによる、英離脱懸念の再燃やECB量的緩和と縮小に向けてのコンセンサスを形成しているとの報道を嫌気しLME銅相場はDOWN、十月十八日時点で四、六七・一五ドル(セツル)と月初価格より一六〇・五ドル DOWNの前半締めとなった。

後半は、中国第三クォータのGDPが六・七%増と変わらなかった事による不信感やOPEC減産会合でのイラクの減産同意不透明感などのマイナス材料もあったが、中国共産党の中央委員会第六回全体会議の開催を受けての景気対策期待や九月末の中国都市部の失業率は四・〇四%で、李首相が目標としていた四・五〇%を大きく下回ったことを好感しUP、十一月二日現在、後半スタート価格から一九一ドルUPの四、八六二・五ドル、銅建値五五万円のスタート。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一〇二・三七→一〇五・六五(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比一・四%増の八四万〇、八九一台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・八%増の二四万二、八六九台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一〇%増の八万五、六二二戸であった。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が六・二%減の五万二、六七七t、スクラップが四%増の一六、二〇一t。

輸入

輸入は電気銅が前年比六九・七%減の三〇四t、スクラップ五〇・七%増の一六、二五六t。

◆前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)に

銅スクラップの需給は逼迫も

よれば、前年比七・六%増の六万七、六九八t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比一・七%増の六万〇、四〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

九月の四輪車生産台数は八四万〇、八九一台で、前年同月比一・四%の増加となり、二カ月連続前年同月を上回った。輸出は四三万五、〇二八台で前年同月比三・七%の増加。

【自動車販売】

十月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二四万二、八六九台で前年比〇・八%増。三カ月連続プラス。

このうち、乗用車は一・六%増、貨物は四%減、バスは九・四%増。

【住宅着工数】

平成二八年九月の住宅着工戸数は八万五、六二二戸で、前年同月比で一〇・〇%増となった。また、季節調整済年率換算値では九八・四万戸(前月比三・〇%増)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で三カ月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【持家】

前年同月比では八カ月連続の増加(前年同月比一・四%増、季節調整値の前月比では四・六%減)。

【貸家】

前年同月比では一一カ月連続の増加(前年同月比一二・六%増、季節調整値の前月比では〇・四%増)。

【分譲住宅】

前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同月比一七・〇%増、季節調整値の前月比では二四・一%増)。

・分譲マンション

前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同月比二三・〇%増)。

・分譲一戸建住宅

前年同月比では一一カ月連続の増加(前年同月比一二・一%増)。(六面へ続く)

【四面より続く】

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比七・六％増の六万七、六九八tと五カ月連続増加。
このうち、内需は五万六、七八三tで八・一％増と二カ月連続プラス、輸出は一万〇、九一五tで五・一％増と四カ月連続プラス。
品種別では、銅条は二万二、〇〇一tで六％増と五カ月連続プラス、黄銅棒は一万六、〇七三tで二・二％増と五カ月連続プラス。

【電線】

前年比一・七％増の六万〇、四〇〇t。
このうち、国内二・三％増、輸出が一七・二％減。

出荷部門別では、通信九・四％減、電力一〇・七％減、電気機械一一・五％増、自動車一三・三％増、建設・電販二・四％減、その他内需一二・五％増。

【輸出】電気銅輸出が六・二％減の五万一、六七七t。銅スクラップは四％増の一万六、二〇一t。

【輸入】電気銅が六九・七％減の三〇四t。スクラップは五〇・七％増の一万二、二五六t。

【見通し】

・自動車は生産が一・四％増。十月の国内販売台数が前年比〇・八％増。生産が二カ月連続プラス、販売が三カ月連続プラス。販売は三カ月連続増だが幅が縮小しており、今後の動向に注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で三カ月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。

・引き続き、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

・伸銅品は五カ月連続プラスの前年比七・六％増。

・需要の多い銅条が、五カ月連続プラス。黄銅棒も五カ月連続プラス、輸出が四カ月連続プラス。

・黄銅棒が五カ月連続プラスで、再び一万六千t台超え。今後の回復に期待。

・電線は輸出が一七・二％減と大幅減。用途の多い自動車は一三・三％増。

・銅輸出は内需回復による国内玉の供給不足から地金は減少、スクラップは円安を受けて小幅増加。

・銅輸入は内需の回復、発生難からスクラップが増加した。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は銅建値が五五万円に上昇した

ことや、銅関連の生産増からのスクラップの発生増加を受けて、かなり売り込みがあったのではないかと。ただ前月に引き続き今後の売り込みは生産・スクラップ発生タイムラグから今月は供給不足になるのではないかと。

自動車生産、販売や伸銅品。電線など好調な指標が出ていことから需要は小幅回復するのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は、中国景気対策と米大統領選に左右される。

中国に関しては、中国政府が空港及び高速道路に五三七・九億元(約七九億\$)の予算を承認したこと、十月の中国製造業PMIが五一・二と予想の五〇・三を大きく上回ったことなど、ようやく対策、回復の芽が出てきており、また前記政策は金融政策ではなく景気対策であることから今後も更なる景気対策が期待される。

米大統領選に関しては十一月八日に一般投票が行われ、そこが一つの節目、当初はクリントン女史の優勢が伝えられていたが、FBIがメール問題を再調査するとの報道を受けて、トランプ氏が現在優勢との事。十一月八日の時点での選挙人が共和党、民主党、どちらが多いかが注目される。

それらを踏まえた十月の銅価格は、中国で追加的な景気対策が行われ、米大統領選の一般人投票で民主党優勢などの報道がなされた場合、五、〇〇〇ドルを予測。いずれの場合も四、八〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合、七月安値の四、六〇〇ドル。

為替は米大統領選で民主党優勢なら円安ドル高、共和党優勢なら円高ドル安に振れるので、十一月八日のその結果次第ではないかと。

それらを踏まえ予測は、上値は大統領一般投票で共和党トランプ氏が有利な報道がされた場合、一〇一円台(TTM)を予測。民主党クリントン女史有利が報道された場合、現状の一〇五円を予測。

銅建値に関しては五一〇、五七〇円程度と予測している。

COMEX銅在庫

二日 七一、九六二トン

三日 七二、九六二トン

変わらず 七二、九六二トン
変わらず 七二、九六二トン